

【 臨床研究に関する情報の公開 】

腱板断裂、腱板損傷で当院を受診された患者さまの試料・情報を用いた医学系研究に対する
ご協力のお願について

項 目	内 容
1. 研究課題名	腱板断裂患者におけるSLAP損傷の有無が術前の肩関節機能に及ぼす影響
2. 研究の対象者	平成29年4月1日から令和4年3月31日の間に、当院整形外科において鏡視下腱板修復術およびリハビリテーションを受けられた方
3. 研究期間	令和4年4月30日～令和4年10月8日
4. 研究実施体制と研究責任者	研究実施箇所：関西電力病院 リハビリテーション部 研究責任技師：リハビリテーション部技師 井上大輔 共同研究機関：なし 資料・情報提供機関：なし
5. 本研究の意義・目的	腱板断裂の手術後は長期にわたるリハビリテーションが必要であり、主に肩関節可動域・腱板機能・肩甲帯機能を向上させることが重要となります。一般的に、腱板断裂はSLAP損傷（肩関節上方関節唇損傷）を合併している場合が多く、術後に良好な治療成績を獲得するためにはこれら合併病変も考慮したリハビリテーションの実施が求められます。SLAP損傷では肩関節後方の可動域制限や肩甲帯機能の低下を呈することが多いですが、腱板断裂患者においてSLAP損傷を合併した際の肩関節機能の特徴は明らかとなっておりません。そこで、今回は腱板断裂患者においてSLAP損傷の有無が術前の肩関節機能に及ぼす影響を調査し、その特徴を明らかにすることで、術後のリハビリテーションの安全性や治療効果の向上を図れる可能性があると考えています。
6. 研究の方法	本研究は後方視的研究です。診療録(カルテ)より身体機能評価や画像検査、手術記録などの情報を収集し、それらの結果を用いてSLAP損傷の有無が腱板断裂術前における肩関節機能に及ぼす影響を調査します。個人の特定が可能な情報は解析に用いません。特に患者さまに新たにご負担頂くことはありません。
7. 研究に用いる試料・情報の種類	当院の電子カルテより年齢、身長、体重、既往歴、罹患期間、SLAP損傷の有無、腱板断裂腱の種類、断裂サイズ、肩関節の可動域、肩関節の痛み、肩関節の筋力、日常生活動作能力を調査します。
8. 試料・情報の保管方法と廃棄方法	患者さまの診療情報・データ等は、解析する前にID・氏名・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、個人が特定できないようにした上で、当院のパスワードロックをかけたパソコンで厳重に保管します。 データ廃棄の際は複数名で完全にデータを消去したことを確認します。
9. 個人情報の保護について	この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は外部に漏えいすることのないように、慎重に取り扱います。研究結果は個人が特定できない形式で学会や医学雑誌に公表される予定です。 研究にご自身の臨床データや試料を提供したくない場合は、11. 問い合わせ・苦情等の窓口へお申し出下さい。お申し出いただいても、診療等に不利益が生じることはありません。
10. 情報管理責任者	関西電力病院 リハビリテーション部 理学療法士 井上大輔
11. 問い合わせ・苦情等の窓口	〒553-0003 大阪市福島区福島2丁目1番7号 関西電力病院 リハビリテーション部 理学療法士 井上大輔 電話：06-6458-5821（代表）